

M i z

水素ガス吸入機、高濃度タイプを発売

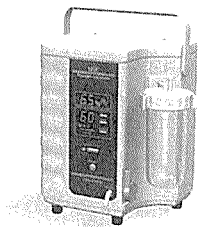
医学的治療ガスとしての水素分子を研究開発するM i z（佐藤文武社長）は、昨年発売の水素ガス吸入機「MHG-2000」（No.828掲載）に続いて、高濃度タイプの「MHG-2000α」を5月より発売した。

同製品は精製水を電気分解して水素ガスを発生させる健康機器で、水電解により発生させた水素ガスは周囲から取り込んだ空気で直ちに希釈し、毎分2ℓの混合ガスとして供給される。水素濃度は、昨年発売機種が4%未満だったのに対し、今回は、電解セルを増やすことで約2倍の6〜7.5%の間となるように設定した。同社は「水素ガスは4%を越えると危ないと考え、最初は約3%に希釈する商品を

作ったが、より高濃度が効果が強いであろうとの医療関係者の声があり、水素濃度の安全性を調べてきた」と、高濃度化を目指してきた経緯を明かす。

「水素ガスの濃度による危険性の違いについて数々の文献を調べたが、産業安全研究所（現労働安全衛生総合研究所）の研究報告からも、通常の環境下では10%以下であれば爆発の可能性は極めて低いことが分かった。独自に実験も行ったが、開放空間では10%以下では爆発の危険性はなかった」とし、「トランプル発生時に電解を自動停止する安全対策を施しているので、6.5%前後までの濃度アップは問題ない」とする。

既報のとおり、同社は一部大学に臨床研究用にも同シリーズを提供しており、今後は、業務用として流量を2倍にしたタイプも発売する予定。



水素ガス吸入機「MHG-2000 α」。
本体の前面パネル上部に現在の
水素濃度が表示される